

長崎県気候変動適応センター ニュースレター 第1号

今回のテーマ:長崎県の気候と気候変動を知ろう

1. 長崎県の特徴

(地理)

- ・九州の西北部に位置
- ・陸地の大部分が半島と大小の島々
- ・海岸が近く、暖流と季節風の影響を受けやすい

(気候)

- ①北部
冬は季節風が強く日本海型気候に近い
- ②有明海沿岸・内陸部
昼夜の気温差大、夏は非常に暑く冬の冷込みは厳しい
- ③対馬・壱岐
冬は季節風で低温、西北部と南東部の気温差大
- ④その他
比較的多雨、冬はやや温暖、夏の暑さも比較的穏やか



長崎県の県土

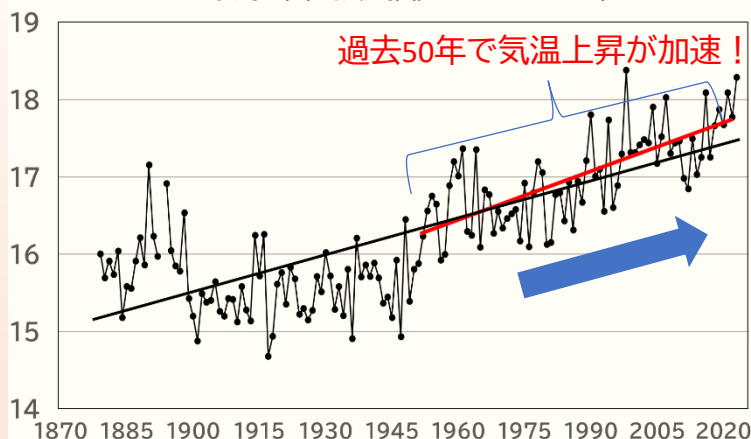
参考: 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター: https://www.green.go.jp/seibi/kyushu/chisei_chishitsu_kiko/nagasaki.html#:~:text=1

2. 長崎県の気候変動

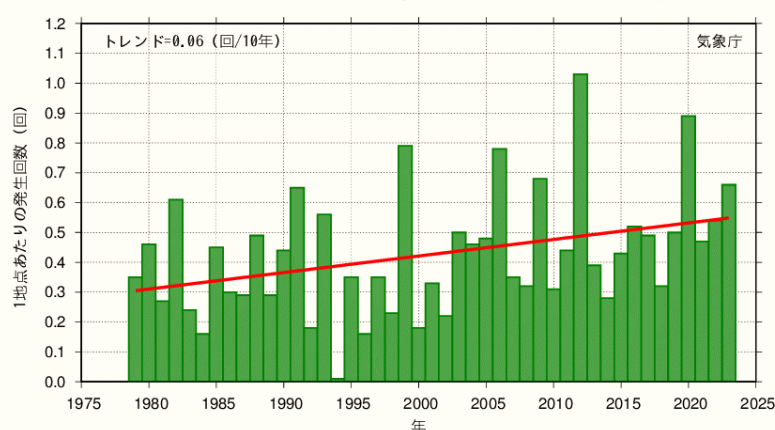
長崎県の気温と降水量にはすでに気候変動の影響がみられています

- ・長崎の年平均気温は100年で約1.5℃上昇しており、日本の年平均気温の上昇(1.35℃/100年)より大きい！
- ・九州北部地方では50mm以上の強い雨が降る日数が増えている！

長崎 年平均気温推移 1879-2023年



九州北部地方 [アメダス] 1時間降水量50mm以上の年間発生回数



(出典: 気象庁公開データを基に長崎県気候変動適応センターが作成)

(引用: 福岡管区気象台データ)

詳細はこちらのホームページをご覧ください

福岡管区気象台「九州・山口県の気候変動の現状と予測:」<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/kaiyo/chikyuu/report/report.html>
(当センターのホームページにも概要を掲載しています。)

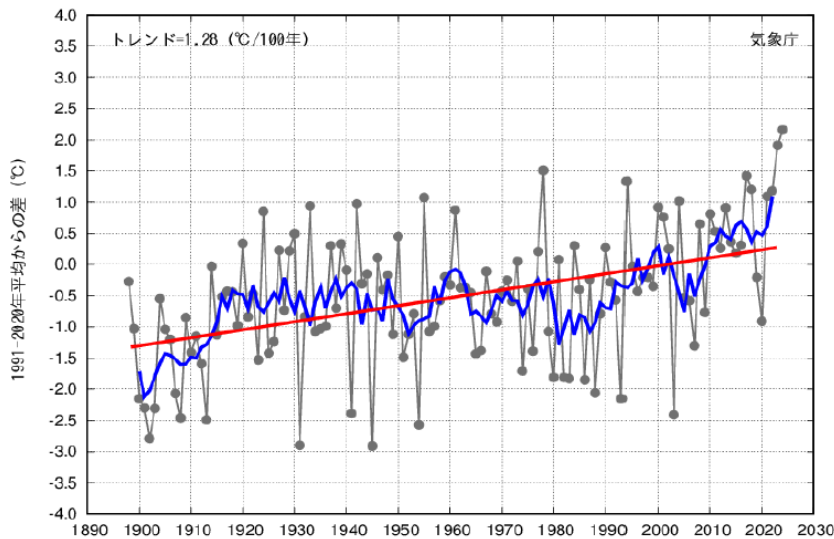
3. 今年の猛暑について

昨年に引き続き、**最も暑い夏**だった！そして**9月も異常に暑かった**

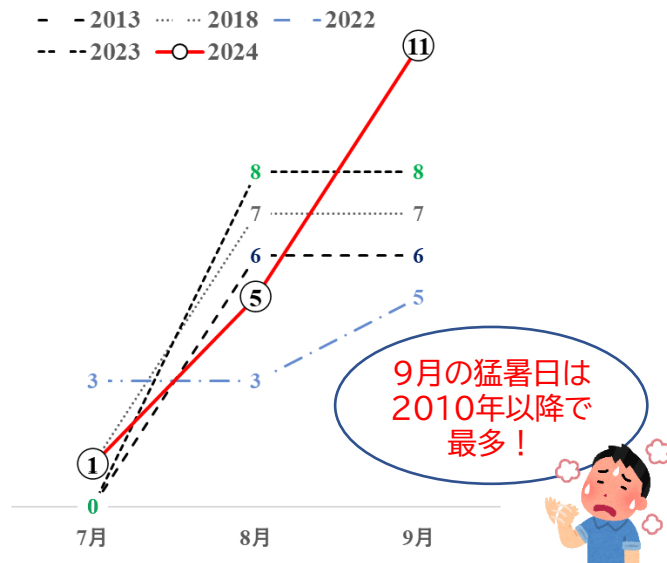
(日本の平均気温は統計開始した1898年以降、**7月は歴代1位**、6月、8月は歴代2位の高温)

(西日本の9月平均気温偏差(平年値との差)は+3.4℃で、1946年以降では歴代1位の高温)

日本の7月平均気温偏差



長崎の猛暑日積算(2010年以降の主な高温年)



出典:気象庁公開データを基に長崎県気候変動適応センターが作成

7月の高温について、文部科学省の研究チームが解析した結果、地球温暖化の影響が無かったと仮定すれば、ほぼ発生しないイベントであったと推定されており、気候変動の影響が顕著に表れた事例と考えられます。

(引用:気象庁(令和6年7月以降の顕著な高温と7月下旬の北日本の大雨の特徴と要因について

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2409/02a/kentoukai20240902.html>)

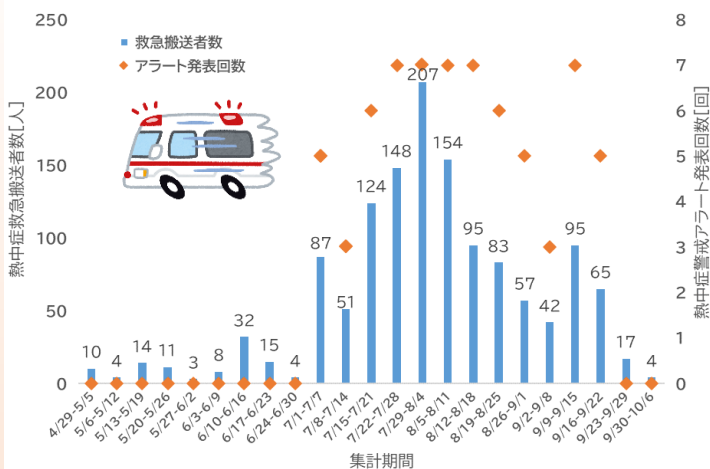
(引用:気象庁(9月の顕著な高温と今後の見通しについて)

https://www.jma.go.jp/jma/press/2410/01a/20241001_septemp.html

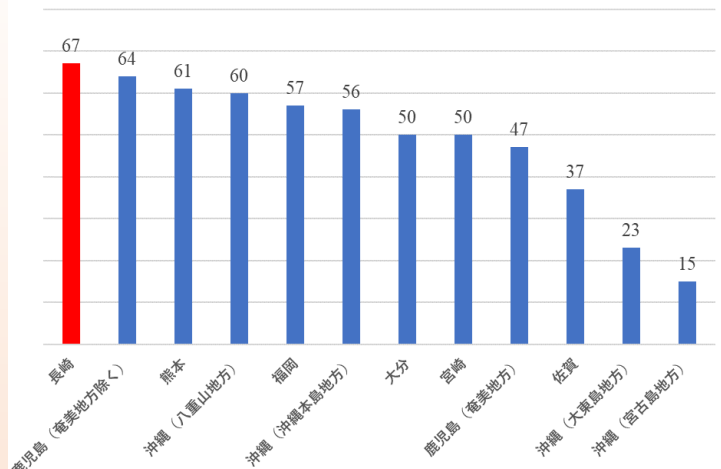
4. 熱中症救急搬送者数

2024年の熱中症搬送者数は、猛暑だった昨年を上回るペースで発生し、**8月には平成20年以降で最多の517人(確定値)**。熱中症警戒アラートの発表数は**全国1位の67回(9月末時点)**でした。

2024年 長崎県内の熱中症救急搬送者数(速報値)



熱中症警戒アラート発表数累計(2024年_九州地方) ※9月末時点



出典:総務省消防庁の熱中症情報及び環境省熱中症警戒アラート発表履歴を基に長崎県気候変動適応センターが作成)

出典:気象庁公開データを基に長崎県気候変動適応センターが作成

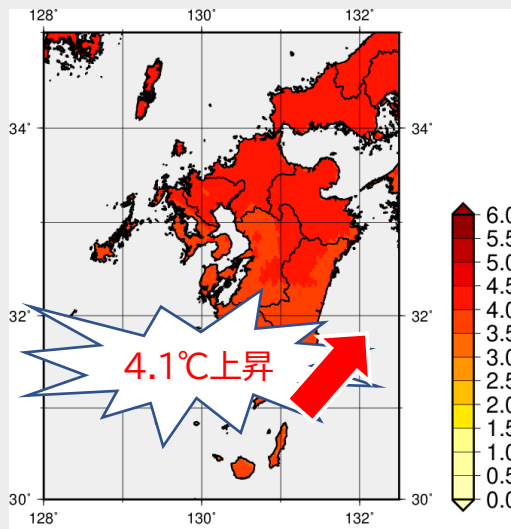
長崎県気候変動適応センターでは熱中症救急搬送者数速報など、熱中症に関する情報を発信しています。詳細はこちらのホームページをご覧ください

(<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kurashi-kankyo/kankyohozen-ondankataisaku/kikouhendo/heatstroke/>)

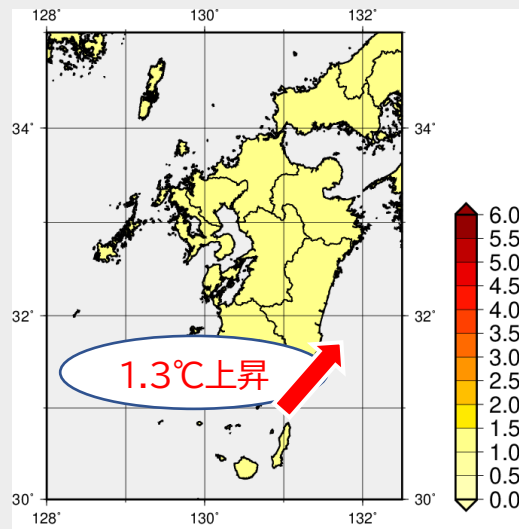


5. 将来の気候

平均気温(21世紀末)



温暖化対策が取られない場合
(世界平均気温4℃上昇:RCP8.5)



温暖化対策が進んだ場合
(世界平均気温2℃上昇:RCP2.6)

(引用:福岡管区気象庁データ)

長崎県の将来的な気温は、温暖化対策が進んだ場合でも、21世紀末には1.3℃上昇すると予測され、少なくとも21世紀中ごろまでは、気温上昇や豪雨の増加など、**気候変動の影響が今よりも大きくなっていく**と考えられています。

高温・大雨などの増加

温暖化対策が進んだ場合でも...

猛暑日(最高気温:35℃以上)	約4日増加
熱帯夜	約17日増加
短時間強雨(50mm/1時間)	約1.3倍増加
大雨(200mm/日)	約1.6倍増加

(引用:福岡管区気象庁データ)

これ以外でも猛烈な台風の増加、海水温上昇などにより、私たちの生活や農林水産業などのさまざまな分野へ影響を及ぼすことが考えられます。

このように、地球温暖化を抑えるための取組が重要であるとともに、**気候変動の影響を軽減・回避していくための対策(適応策)**も必要になります。

長崎県気候変動適応センターについて

県内における気候変動の影響や適応に関する情報拠点として、令和3年10月、長崎県環境保健研究センター内に設置しました。ホームページで熱中症の発生状況や県内で行った気候変動に関する調査結果などの情報を発信しているほか、セミナーや環境イベントへの出展を行って啓発活動も行っています。

このニュースレターでは、気候変動による影響や適応に関して発信していきます。

長崎県気候変動適応センター(事務局:長崎県環境保健研究センター)

電話:0957-48-7560

HP:<https://www.pref.nagasaki.jp/section/kankyo-c/index.html>

